朋友有信　13 回生思考回廊パネル

1965 年母校を巣立った 159 名は『芙蓉六合会』を名乗り、今も固い絆で結ばれている。後に『13 回生は附設高校のメルクマールだった。』【 merkmal （独)指標、目印】と言われるようになった。何故と問われても、他人の評なので推測ではあるが、13 回生の在学中は勉強より、体育祭への熱中、生徒会創立、第一号文集『カオス』発行、学生寮1期生としての非模範的生活等々で、進学率に不安を抱かせる素行の数々であったにも拘わらず、難関大学へ多数の合格者が輩出した事と、その知らせの直後大内覺之助三代目校長が亡くなられた事が重なり余計に印象に残ったからであろう。

そんな生徒達が何故合格出来たのだろうか？もともと優秀な素材であったという理由では説明出来ない。今語り合うと、「良い先生達がいて見守って呉れたから。」という言葉が出て皆も同意する。生徒に内在するエネルギーに、先生達の熱がぶつかり、核融合のように莫大なエネルギーが解放されたからではないだろうか。勉強にも、遊びにも、化学室、寮や先生宅での人生相談にも、制約より自由と応えて呉れる先生方に出会えたから、この母校への誇りと同期の結束が生まれたのだと思う。もう一つの特質は骨身を惜しまず他に尽くす人材が育った事である。長谷川同窓会会長、一瀬副会長をはじめ同窓会の活動を皆で支えている。同期の友として、彼等の無私の思いを共有出来るからだ。

朋友有信（孟子）とは、漢字の「朋」には、同じ所で学んだ者という意味がある。「友」は二つの又＝手から構成され、互いに交わり友となる意。「有信」は友の関係で最も大切な心構えは「信」（人と言＝偽りの無い真の心）であるという教えである。 同窓の友が信で結ばれている実感からこの言葉を選び、篆書（テンショ）という字源が判る書体で書いたが、同期でも読める者は少数なのでデザインとして許してもらった。制作にあたり、Lixul 社の着色,㈱はせがわの金箔技術に感謝します。

思考回廊には後輩へのメッセージ性があると言われる。今の学生諸君と、同じ時間を多く過ごす事は出来ないが、このパネルには、附設で朋として学ぶ皆には、いつか自らのエネルギーを最大限に解放するために、「熱」をもって師や友にぶつかり「信」を得て欲しいとの思いがある。

13 回生　制作下請け　増田恒夫